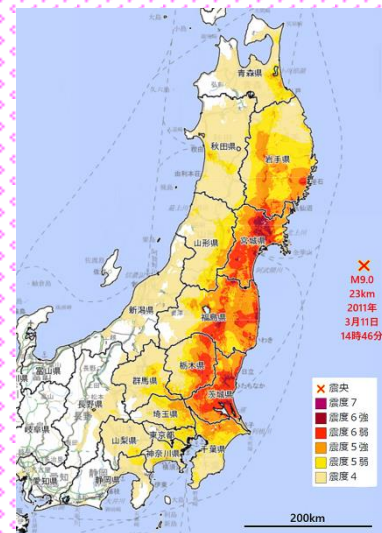


児童朝会 校長の話 3月11日

今日は3月11日です。13年前の今日、東日本大震災が起きました。今まで経験したことのないような巨大地震でした。13年経っているのに、6年生が生まれる前ですから、ここにいる皆さんは誰も生まれていない時に起きた地震ですね。私は当時、千束小学校の副校長でした。起きたときに職員室で座っていましたが、揺れが大きすぎて立ち上がれませんでした。各教室の様子を見に行こうと思いましたが、廊下を立てて歩けません。壁を伝わって歩きました。教室では、怖くて子供たちが泣いたり叫んだりしていました。体育館のランドピアノが揺れて動いていました。昨日のこのように思い出すことができます。どのように巨大地震だったか、まず地図を見てください。

濃い赤色の所は震度7です。震度7は家が潰れたりビルが倒れたり道が陥没したり割れたりする揺れ方です。それが岩手県、宮城県、福島県、茨城県、栃木県、まで広がっています。黄色いところは震度5です。東京も黄色になっていますが、立って歩くことができなくて棚や本棚から食器や本が全部落ちてくる位の揺れ方です。それが東北地方、



関東地方全域に及んでいます。更に大津波が押し寄せました。10mから20m位の高さだったと言いますから、浅草小学校の屋上くらいの高さです。

津波が町全体を押し流して破壊してしまいました。

この地震によって亡くなった方は関連死を含めると2万人以上です。13年経っても行

方不明の方が2500人以上います。未だに避難生活をしている人は3万人いるそうです。

私は、いつも心に残った新聞記事を切り抜いて取っておくのですが、ここに2011年5月10日の新聞記事があります。震災から2ヶ月後の記事です。ここに写っている女の子は



昆愛海ちゃん5歳です。津波にのみ込まれ自分だけが助かり、お父さん、お母さん、妹が行方不明になってしまいました。まだ小学生にはなっていませんが一生懸命ひらがなを使ってお母さんとお父さんに手紙を書いています。「ママへ いきているといいね。おげんきですか。おりがみ、あやとり、ほんをよんでくれてありがとう。」「パパへ あわびとかうにかたことかこんぶとかいろいろなをとってね。」そして4月24日は妹の3歳の誕生日でした。おばあちゃんと一緒に、誕生日ケーキにろうそくを3本立てました。愛海ちゃんは13年経っているのもう高校生になっていますね。

もう一つ記事があります。

津波で行方不明になった木村汐凧ちゃん7歳をずっと探し続けているお父さんがいました。福島県から遠く長野県に避難しましたが、ずっと娘さんの遺骨探しに福島まで通ってきていました。そしてとうとう震災から5年9ヶ月経って、汐凧ちゃんのマフラーが見つかり、その近くに顎と首の遺骨が見つかりました。この記事はそれを伝える2016年12月26日のものです。お父さんは全ての遺骨が見つかるまで探し続けると言っています。

汐凧ちゃんは震災当時小学校1年生でしたから、遺骨が見つかったのは、生きていれば中学1年生でしたね。

東日本大震災が起きて13年です。今日は、亡くなった方のご冥福を祈り、行方不明の方の何か手がかりが見つかることを祈り、未だに避難生活をしている方が安心して暮らせるように祈りましょう。

35 社会 14版 2016年(平成28年)12月26日 月曜日 第1頁

娘の小さな遺骨が、行方不明から5年9ヶ月ぶり、父の手ひらに戻る。東日本大震災で津波被害を受けた福島県大熊町沿岸のがれきりの中から入骨が見つかり、県警のDNA鑑定の結果、大熊町の最後の行方不明者、木村汐凧さん(当時7)の遺骨とわかった。避難先の長野県に属村から捜索に通い続けた父紀夫さん(56)は、「うれしいが、全て見つけるまで探し続ける」。

# 5年9カ月 おかえり汐凧

ゆうな

福島・大熊町

## 津波で不明の7歳 遺骨発見

紀夫さんによると、今日9日、大熊町の自宅から数百メートル離れた海岸沿いで、捜索を手伝っていた作業員が汐凧さんのマフラーを発見。その付近から首や顎の骨も見つかり、汐凧さんのものと判明した。22日に紀夫さんに福島県警双葉署から連絡があったという。

紀夫さんは、津波で妻の深雪さんと父親の太郎さんを失い、汐凧さんは行方不明になった。その後、原発事故で大熊町に避難指示が出され、紀夫さんも避難を強いられたが、2011年暮れから捜索を始め、現在の避難先の白馬村から徒歩千以上の道のりを車で通って汐凧さんを探してきた。

12月6日には、震災当時はいっていたとみられる汐凧さんの靴が、今回遺骨が見つかった場所の近くで見つかったという。放射線量が高く、いまなお大半で立ち入りが制限される福島県双葉郡大熊町では、震災当初、自衛隊などによる大規模な捜索がほとんど行なわれてきた。紀夫さんは、捜索を中止した東電と捜索を十分しても出さなかったのは残念だと語り、骨が見つかった大熊町では津波で1人が犠牲になり、汐凧さんが大熊町町に通う。

父「全て見つけるまで探し続ける」

お大半で立ち入りが制限される福島県双葉郡大熊町では、震災当初、自衛隊などによる大規模な捜索がほとんど行なわれてきた。紀夫さんは、捜索を中止した東電と捜索を十分しても出さなかったのは残念だと語り、骨が見つかった大熊町では津波で1人が犠牲になり、汐凧さんが大熊町町に通う。